

第74回 発電用設備規格委員会 火力専門委員会 材料分科会 議事録(案)

1. 日 時: 2015年1月15日(木) 13時30分～17時
2. 場 所: 日本機械学会 第3,4会議室
3. 出席者: 木村(NIMS)、伊藤(IHI)、井手(東電)、齊藤(中電)、戸田(NIMS)、妹尾(関電)、
俣野(KHI)
欠席者: 菊原(BHK)、森(新日鐵住金)、清水(MHI)
事務局: 原

4. 配付資料

- 74-1 第73回材料分科会議事録(案)
- 74-2 材料分科会委員名簿
- 74-3 第70回火力専門委員会議事録
- 74-4 第25回材料専門委員会議事録
- 74-5 第72回規格委員会議事録
- 74-6 高クロム鋼のクリープ強度見直しに係る対応について(材料専門委員会からの回答)
- 74-7 電力安全小委員会における関連情報
- 74-8-2,3 発行に係る資料、追補版発行のスケジュール案
- 74-9-1 追補版用資料: 表Ⅱ-1-2(井手委員作成)
 - 2 追補版用資料: 本体、補遺、表Ⅱ-4-1(俣野委員作成)
 - 3 追補版用資料: 表Ⅱ-3-3(森委員作成)
 - 4 発電用火力設備基本規定(2012年版目次)
 - 5 追補版用資料: 表Ⅱ-1-1(伊藤委員作成)
 - 6 追補版用資料: 表Ⅱ-1-1 備考(伊藤委員作成)
 - 7 追補版用資料: 表Ⅱ-2-1(清水委員作成)
- 74-10-0 審議履歴表
 - 10-1 改訂用レビュー資料 本文
 - 10-2 改訂用レビュー資料 補遺

5. 議 事

- (1) 前回議事録確認 [資料 74-1]
前回議事録(案)について確認を行なった。(4-3),(4-4),(4-5)の付番を見直し、(4-2-3)、(4-2-4),(4-2-5)とする。それ以外の部分については、出席委員全員の賛成により承認された。
- (2) 分科会委員の確認 [資料 74-2]
委員の再任、退任・新任はなし。

(3) 火力専門委員会・材料専門委員会・規格委員会他報告

(3-1) 火力専門委員会

[資料 74-3]

第 70 回火力専門委員会の主要な審議内容が報告された。

- ・第 70 回、第 71 回規格委員会報告、分科会報告における材料分科会活動概要の報告。
- ・高クロム鋼のクリープ強度見直しに係る審議(ご意見伺い)について、説明の概要、ご意見・質疑内容が報告された。

(3-2) 材料専門委員会

[資料 74-4]

第 24 回材料専門委員会の主要な内容が報告された。特記事項は以下のとおり。

- ・開示制限データ取扱要領(案)書面投票の意見対応について
- ・高クロム鋼のクリープ強度見直し(案)書面投票の意見対応について
- ・火 STPA24J1 系鋼及び火 SCPH91 鋼に係る回答について
- ・トレンドカーブの引き方に関するケーススタディ案について
- ・「材料事象解説分科会」の設立について

(3-3) 規格委員会報告

[資料 74-5]

第 72 回規格委員会の審議内容のうち、火力・材料に関連する内容が報告された。特記事項は以下のとおり。

- ・火力専門委員会報告 分科会活動状況、高クロム鋼のクリープ強度見直しに係る対応等を報告。
- ・安全率(設計係数)の 3.5 への引き下げに関する動き、JSME 規格のエンドース時期の見通しに関する質疑の紹介。
- ・許容応力の引下げ→許容応力の引き上げ、発電技研→発電技検の 2 件は、記載ミスと考えられるので、事務局にて規格委員会事務局に連絡する。(修正済みを確認)
- ・発電用火力設備規格に関する審議事項はなし。

(3-4) 検討依頼に対する材料専門委員会からの回答

[資料 74-6]

火力専門委員会から材料専門委員会への検討依頼に対し、材料専門委員会から資料 74-6 のとおり回答があった。回答には、許容値引下げに関するユーザへの対応について、「JSME 規格側としてユーザに注意喚起等を行うことの必要性について検討いただきたい」との記載がある。

ユーザへの注意喚起については、規格委員会幹事会にて正誤表等の発行情報等をユーザにお知らせする仕組みを検討中のため、この仕組みの中で注意喚起することも検討中である。

(3-5) 電力安全小委員会における関連情報

[資料 74-7]

12 月 22 日に開催された電力安全小委員会における、JSME 規格の関連情報について、以下のとおり情報提供された。

- 火技解釈の安全率の変更は、発電技検への委託事業において検討中。次々回の電力安全小委員会において検討結果を報告予定。

- 安全率変更の検討結果を踏まえ、「JSME 発電用火力規格基本規定(2012 年度)」の火技解釈への取り入れを検討する。
- JSME 規格の取り入れ検討の時期は、当初の見込みより遅れ気味となっている。

(4) 審議事項

(4-1) 高クロム鋼の強度見直しに係る対応と今後の進め方

- 高クロム鋼の強度見直しに係る許容応力の変更については、追補版を発行することとする。
あわせて、準備を進めていた 2012 年版の正誤表についても、正誤表の発行ではなく追補版に反映する。これは、規格委員会幹事会において、正誤表の一部を活動状況報告として紹介したところ、誤記と言えない技術的な変更を含むと判断されるものについては、追補版発行も考えるべきとの意見も考慮している。
- 事例規格の扱い：追補版における基本規定の見直しの中で、J 火材は読み替え規定の追加により対応する方針とした。(資料 74-9-4)
- 将来的には火技解釈の安全率が 3.5 に改定になると、火技解釈材と J 火材で引張許容応力が同じになるので、J を取ることも検討する。
- 事務局より、追補版作成のために準備する資料と飯田火専幹事スケジュール案の紹介があった。
(資料 74-8-2,3) 本スケジュール案を目標に作業を進めることとなった。

(4-2) 追補版資料の確認

(4-2-1) 許容応力表Ⅱ-1-2

[資料 74-9-1]

- 井手委員より説明があり、審議を行った。
- 作成資料のとおり、追補版に反映する。

(4-2-2) 本体、補遺、許容応力表Ⅱ-4-1

[資料 74-9-2]

- 俣野委員より説明があり、審議を行った。
- 作成資料のとおり、追補版に反映する。

(4-2-3) 許容応力表Ⅱ-3-3

[資料 74-9-3]

- 木村主査から説明があり、審議を行った。
- JIS B 8267 は、確認したところ 2015 年 3 月 8 日改訂予定であった。追補版は、2008 年版と照合した。
- 注釈記号の記載ミス、許容応力値の違いは、作成資料のとおり修正し追補版へ反映する。
- 許容応力表の「適用章及び最高使用温度」は、温度を読み替えるものは読み替え温度に修正する。

(4-2-4) 許容応力表Ⅱ-1-1

[資料 74-9-5,6]

- 伊藤副主査から説明があり、審議を行った。
- 追補に反映するものと反映しないものを以下のとおり仕分けした。
- 追補に反映するもの

・ 11:鋼種削除 ・ 21:JIS 年版変更 ・ 22:許容引張応力の行削除

- ・ 24:許容引張応力の修正 ・ 25:備考内容の修正の内、肉厚区分の備考削除
- ・ 27:JIS 番号変更に伴う削除 ・ 28:JIS 番号変更に伴う追加 ・ 29:規格名称の変更
- 追補に反映しないもの
- ・ 23:許容引張応力の温度範囲拡大 ・ 25:備考内容の修正の内、火技反映
- ・ 26:備考と引張許容応力の修正
- 許容応力表の追補への反映に合わせ、備考も追補への反映を行う。

(4-2-5) 許容応力表Ⅱ-2-1

事務局から説明を行い、審議を行った。

- ・ 清水委員作成資料のとおり、追補版へ反映する。

(4-3) レビュー票審議

俣野委員から、本文、補遺のレビューについて説明があり、審議を行った。

- ・ 火技解釈の改正日を最新のものに変更した。

6. 次回開催予定

日 時 : 2015 年 2 月 18 日 (水) 13 : 30 ~ 17 : 00

場 所 : 日本機械学会 第 1 会議室

議事内容 : 各委員が追補版用資料 (対比表、可能ならば追補原稿) を作成し、確認を行う。